

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創設120年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、未来に向けた挑戦を続ける。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 45分×7限授業（35単位時間（45分授業））により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。

ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。

エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度80%以上をめざし、その後も80%以上を維持する。 (H29 86% H30 80% R1 86%)

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。

イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。

※（生徒向け）学校教育自己診断における「探究活動の満足度」80%以上をめざし、その後も80%以上を維持する。(H29 80% H30 81% R1 83%)

また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度70%以上をめざし、令和4年度には75%以上をめざす。

(H29 66% H30 66% R1 75%)

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度90%（令和元年度は89%）をめざし、その後も90%以上を維持する。(H29 87% H30 88% R1 89%)

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、オーストラリア、アメリカ等）の充実及び新たな交流国の開拓

イ ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通したグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」90%をめざし、その後も90%以上を維持する。(H29 95% H30 89% R1 93%)

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度90%をめざし、その後は90%以上を維持する。(H29 92% H30 93% R1 89%)

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進

イ 安全・安心な学校づくり

ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度90%以上（令和元年度は96%）をめざし、その後も90%以上を維持する。

(H29 90% H30 86% R1 96%)

また（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。(H29 94% H30 93% R1 94%)

5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。

イ 校務の見直しによる業務の軽減化

ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。</p> <p>ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づき英語の運用能力の素地を育成する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>ア・45分×7限授業(中学校では週35単位時間)により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとに「アクティブ・ラーニング」の取組を検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <p>・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。</p> <p>・中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科間で授業交流期間を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。</p> <p>・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。</p> <p>・ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。</p> <p>ウ・毎朝始業前に10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。</p> <p>・オールイングリッシュでの体験をベースとした「イングリッシュキャンプ」等を1・2年生で実施する。</p> <p>・中学1・2年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。</p> <p>エ・家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断における授業満足度80%以上(令和元年度86%)をめざす。</p> <p>イ・(教員向け)学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を意識して授業をしている。」90%以上(令和元年度89%)をめざす。</p> <p>授業改革推進チームに中学教員を授業改革メンバーとして位置づける。</p> <p>・考査問題に、思考力・判断力等を問うものが含まれていたか。</p> <p>・授業交流期間を設け、すべての教科で授業研究が実施できたか。また、年に2回以上の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。</p> <p>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。</p> <p>・ICT機器を活用した授業ができたか。 (教員向け)学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」90%以上をめざす。 (令和元年度89%)</p> <p>ウ・「モーニング・イングリッシュタイム」を通年で実施できたか。</p> <p>・「イングリッシュキャンプ」を実施できたか。</p> <p>・全学年が英語能力試験(GTEC)を受験し、その技能別結果を分析できたか。</p> <p>・上記の取組み結果を総合的に指導方法の工夫改善につなぐことができたか。</p> <p>エ・(生徒向け)学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」60%をめざす。 (令和元年度56%)</p>	
2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。</p> <p>ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で、課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。</p>	<p>ア・総合的な学習の時間の中で探究活動の素地を育成する。</p> <p>・総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を開設することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。</p> <p>・総合的な学習の時間の中で「探究」と「貢献」をキーワードとした教材を活用し、自己肯定感を高めるとともに将来の進路や生き方について考え、自ら切り開いていこうとする姿勢を身に付ける。</p> <p>・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。</p> <p>イ・生徒全員に学力推移調査及び総合学力調査(外部試験)を実施し、将来の目標を早期に発見させる。</p> <p>・中高一貫した学力向上実現のための組織を構築し、効果的に機能させる。</p> <p>・毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。</p>	<p>ア・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を基礎に総合的な学習の時間の中で専門的な講座や講演等を実施できたか。</p> <p>・設定した目標に従い、探究型の課題研究ができ、また個人やグループのプレゼンテーションの質が高まっているか検証できたか。(ルーブリックの活用)</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度80%以上をめざす。(令和元年度86%)</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断における「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度70%をめざす。 (令和元年度75%)</p> <p>・探究活動の発表として広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で、「学びと育ち」地域フォーラムを開催できたか。</p> <p>イ・学力推移調査及び総合学力調査の分析結果を保護者に公表する。</p> <p>・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携に努め、学習優先日(毎週火曜日)に中学・高校教員、高校生、地域人材(大学生等)を活用した学習支援を実施できたか。</p>	

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア 国際交流(マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、オーストラリア、アメリカ等)の充実及び新たな交流国の開拓</p> <p>イ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続</p> <p>・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <p>① 文化祭・体育祭における準備委員会を高校生と協働で活性化させる。</p> <p>② 修学旅行等を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。</p> <p>・部活動への参加を奨励し、文武両道をめざすとともに中高一貫した指導体制を整える。</p> <p>イ・中学校段階に相応しい人権及び生徒指導研修を計画・実施する。</p> <p>・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に着けさせる。</p> <p>ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していこうとする力を育てる。中心となる活動として「マークハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。</p> <p>・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>・演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・高校との連携により、ベトナム、タイ、オーストラリア、アメリカ等をはじめとする様々な国の生徒との交流を充実させる。</p> <p>イ・台湾姉妹校、また、高校との連携により高校姉妹校との交流を充実させる。</p> <p>・修学旅行先である台湾において学校交流するとともに、異文化を理解する態度をはぐくむ。</p> <p>・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にして実施する。(中学ではマレーシア等でグローバルリーダー育成海外研修旅行を実施し、世界的な視野を広めるとともに、多様性を理解しようとする態度をはぐくむ。)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断結果における行事満足度90%をめざす。(令和元年度89%)</p> <p>・部活動加入率90%以上(令和元年度90%)を維持する。</p> <p>イ・課題に合致した人権研修の実施。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における人権教育満足度90%(令和元年度89%)をめざす。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における校則遵守率90%(令和元年度93%)を維持する。</p> <p>をめざす。</p> <p>ウ・「マークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取り組みを実行できたか。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度80%(令和元年度87%)をめざす。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」55%以上(令和元年度54%)、「相談できる友達・先輩後輩等」75%以上(令和元年度83%)をめざす。</p> <p>・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・多くの生徒が海外の中・高校生と交流できたか (国際交流を3回以上開催する。)</p> <p>イ・台湾の姉妹校と交流ができたか。</p> <p>ウ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、マレーシア等でのグローバルリーダー育成海外研修を実施できたか。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断結果で国際交流満足度90%以上(令和元年度93%)をめざす。</p>	
--	---	--	---	--

府立富田林中学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。</p> <p>ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。</p> <p>イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページに一新するとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。</p> <p>ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進</p> <p>イ 安全・安心な学校づくり</p> <p>ウ 地域貢献を推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中学、高校それぞれの対応する分掌が協働できる会議システムを構築する。</p> <p>・中高一貫教育の観点で創設した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。また、中高一貫校となって4年目を迎える次年度を契機に、分掌再編を検討する。</p> <p>イ・全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。</p> <p>ウ・中高一貫校としてふさわしい学校ウェブページとし、積極的に効果的な情報発信をする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に引きより多くの方々が学校運営に参画できるように努める。</p> <p>・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。</p> <p>・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、ファーストランナーによる講演を実施し、高い志をはぐくむ。</p> <p>イ・教員だけでは対応できない教育課題解決のための人材(SC、SSW、識者等)を「学校支援チーム」に効果的に配置する。</p> <p>・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</p> <p>・安否確認等を迅速に行えるよう、連絡手段を確立させる。また、適当な時期に想定連絡を実施する。</p> <p>ウ・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)を活用し、地域を知るとともに地域の課題を発見させる。</p> <p>・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</p> <p>・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で探究活動の成果発表の場である「学びと育ち」地域フォーラムを開催する。</p> <p>・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能することができたか。</p> <p>・分掌再編に向けての検討が具体化されたか。</p> <p>イ・中高一貫校等の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。</p> <p>(視察を2回以上実施する。)</p> <p>ウ・中高一貫校としてふさわしい学校Webページから、積極的に効果的な情報発信ができたか。</p> <p>(保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度90%以上を維持する。</p> <p>(令和元年度 93%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方々が学校運営に参画し、十分に意見交換できたか。</p> <p>・(生徒向け)学校教育自己診断における「学校満足度」90%以上をめざす。</p> <p>(令和元年度 86%)</p> <p>(保護者向け)学校教育自己診断における「学校満足度」90%以上を維持する。</p> <p>(令和元年度 93%)</p> <p>イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演等を実施したか。</p> <p>・連絡手段体制が確立し、想定訓練等も実施できたか。</p> <p>ウ・広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)を活用し、南河内探究、社会探究、課題提案探究を実施できたか。</p> <p>・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。</p> <p>・探究活動の発表として広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で、「学びと育ち」地域フォーラムを開催できたか。</p> <p>・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。</p> <p>ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底</p> <p>イ 校務の見直しによる業務の軽減化</p> <p>ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。</p> <p>イ・校務(事業等)を見直すことで業務の軽減化を図る。</p> <p>ウ・教育課題解決のための人材(SC、SSW、学生サポーター等)を「学校支援チーム」として効果的に配置することにより教職員の負担軽減をはかる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。また、時間外勤務が削減されたか。</p> <p>イ・校務の見直しを図ったか。</p> <p>中高協働で実施できる部活動5部以上をめざす。</p> <p>ウ・外部人材を適切に配置したか。</p> <p>ア、イ、ウとも、(教員向け)学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度(令和元年度 56%) 60%以上をめざす。</p>	